心揺るがす日本講演新聞
本社　〒880-0911　宮崎県宮崎市田吉6207-3
info@miya-chu.jp　Tel(0985)53-2600　Fax(0985)53-5800
毎週月曜日（第５月曜日除く）月４回発行
【郵便振込口座】02060-3-7621　【銀行口座】宮崎銀行赤江支店（普）1336375
紙版＋Web版：お得な1,650円（税・送料込）/月
紙　版：1,300円（税・送料込）/月　Web版：1,100円（税込）/月
音声版：1,100円（税込）/月～　※Voicyアプリ内課金の場合1,600円（税込）
【お問合せ】メール、ファックス、お電話（平日9:00～16:00）にて

この日本講演新聞は見本紙（サンプル版）です。
実際の紙面は、講師１名の特集記事（１面～２面）および社説と複数のコラムで構成されています。
実際の紙面をご希望の方は、１か月（４回分）無料でお送りいたします。２面右下よりお申し込みください。

宮崎発夢未来～ときめきと学びを世界中に
# 日本講演新聞
見本紙
発行　㈱宮崎中央新聞社

## 侍ジャパンが世界一に輝いた理由

2023年 ＷＢＣ侍ジャパン ヘッドコーチ
一般財団法人日本プロスピーカー協会顧問
**白井 一幸**

写真提供 白井一幸さん

【しらい かずゆき】1983年日本ハムファイターズ（現北海道日本ハムファイターズ）にドラフト１位で入団し、プロ野球選手として13年活躍。引退後に、97年より日本ハムファイターズの球団職員となる。ニューヨーク・ヤンキースでのコーチ研修を経て、2000年に２軍総合コーチに就任。以来、２軍監督やヘッドコーチなどを歴任する中で、従来型の選手指導方法を一新。コーチングを取り入れた選手指導で次々と優秀な若手選手を輩出し、リーグ優勝３回、日本一２回を達成。

今回のワールド・ベースボール・クラシック（ＷＢＣ）で、侍ジャパンはなぜ無敗で世界一になり、多くの人に感動を与えることができたのか。

それは、侍ジャパンが最高のチームをつくりあげることができたからです。

最高のチームになるために何より大事なのは、チームの全員がチームの目標・目的を共有し自分事として捉えることです。

侍ジャパンのメンバーは、世界一になるために選ばれた選手です。ですから侍ジャパンとして集まった瞬間から、「世界一になる」という目標を全員が共有できていました。

そのため、私が最初にメンバーへ伝えたのは、「世界一になるという目標を達成するには、侍ジャパンとしての目的を明確にすること。その目的を達成するために活動することが目標達成につながる」というメッセージです。

侍ジャパンの目的は、野球に携わる全ての人にプラスの影響を与えること。そして、野球を通して多くの人に元気、勇気、感動を与えることでした。

侍ジャパンは、この目標と目的の両方をチーム全員が共有できていたのです。

世界一になった後、「感動しました」という声をたくさんいただきました。では、その「感動」は何から生まれると思いますか？

意識すればできることを、誰よりも全力で徹底してやることを「凡事徹底」といいます。この凡事徹底が感動を呼ぶのです。

例えば、バッターがボールを打った後、ファーストに向かって全力で走る。そこに特別な技術や能力は要りません。「打ったら全力で走る」なんて、意識すれば誰でもできることです。

今回、侍ジャパンのメンバーにメジャーリーガーのラーズ・ヌートバー選手がいました。

彼はそんな凡事徹底の全力プレーで、日本のファンの心をつかむだけでなくチームに活気をもたらしてくれました。

１次ラウンド初戦の中国戦、四回の攻撃で彼はファーストゴロを打ちました。

ファーストゴロは、飛んできたボールをファーストが捕ってベースを踏めば簡単にアウトです。もしボールをはじいても、ベースカバーに入ったピッチャーにトスすればアウトになります。

だから、多くのバッターはすぐに諦めてしまいます。全力で走る選手はほとんどいません。

でも、ヌートバー選手は打った瞬間から全力で走りました。この全力疾走に相手はプレッシャーを感じます。そしてファーストのエラーでセーフになり、その後の追加点につながりました。

ヌートバー選手は、三回の守備でも浅いフライをスライディングキャッチするという全力プレーを見せていました。

彼のプレーにチームメイトは感動し、「メジャーリーガーでもあれだけ全力でやるんだ。俺たちも、もっと全力でやろうぜ！」とチームに活気があふれました。

そうやって、「感動を与える」という目的のためにチーム全員が全力でプレーしました。全力を尽くすことは誰にでもできます。それを全員が徹底したことで、世界一という目標が達成できたのです。

写真提供 白井一幸さん

ＷＢＣの期間中、栗山英樹（ひでき）監督はなかなか調子が上がらない村上宗隆（むねたか）選手をスタメンで使い続けていました。

栗山監督は私と二人きりの時でも、選手を批判したり悪く言ったりすることはありません。裏表がなく、選手を信じる思いが一貫しています。

だから私は、「村上選手を外しましょう」とは言いませんでした。

でも、コーチにはそれぞれの役割や責任があります。

あるコーチが、「監督、短期決戦で選手の調子が上がるのを待つのはダメじゃないですか？　代わりに○○選手を使ったらどうですか？」と言いました。

すると栗山監督は、「言いづらいことを言ってくれて本当にありがとう。でも、村上選手は将来日本の球界を背負って立つ人間なんだ。ＷＢＣの期間中、どこかで大仕事をするのが村上選手なんだ。だから使わせてくれ」と言ったのです。

もし準決勝のメキシコ戦で、村上選手がサヨナラヒットを打てず日本が負けていたら、批判の声が殺到していたはずです。

そういうことが予想されるような場面でも、栗山監督は選手を信じ続けます。

栗山監督は、「信頼される人」ではなく「信頼する人」なのです。信頼するから信頼される人になるわけです。

そして信じる人に任せたら、たとえどんなに結果が悪くても、「やってくれてありがとう」「全力を尽くしてくれてありがとう」と、感謝の言葉を伝えます。

「信じて、任せて、感謝する」。栗山監督はそういう人なのです。

決勝のアメリカ戦では、八回にダルビッシュ有投手がマウンドに上がりました。実はダルビッシュ投手は、この時とても調子が悪かったのです。

普通は八回に２点差という状況で、調子の悪い投手には投げさせません。でも、栗山監督はダルビッシュ投手を信じて任せました。

その後、九回のマウンドに上がった大谷翔平選手は、先頭バッターをフォアボールで出塁させましたが、続くバッターはダブルプレーに打ち取りました。

ツーアウトランナーなしという場面。ここで、大谷選手はロサンゼルス・エンゼルスのチームメイトでもある、マイク・トラウト選手を打席に迎えました。

試合を見ていた皆さんは、この時すごくドキドキしていたと思います。

でも私は超冷静でした。「あの大谷翔平がこんな場面でコケるわけがない。絶対に抑えるよ」と、彼を信じていたのです。

何より、私の隣には栗山監督が立っています。

栗山監督は人の悪口を言いませんし、批判することもありません。そして、利他の精神で「どうすれば選手が成長できるか」「どうすればチームが勝つか」と、周りに対して自分ができることをいつも考えています。

こんな徳を積んでいる人ですから、栗山監督は運がいいのです。

だから私は「そんな人が描いたストーリーの中で、翔平が負けるわけがない。絶対に抑えるよ」と、彼を信じていたのです。

## 社説

オピニオンエッセイ

魂の編集長
水谷 もりひと

### 社会からの無言の称賛を感じる感性

中学３年の道徳の教科書（東京書籍）に掲載された社説

この話を受けて、哲学者・内田樹（たつる）氏は、著書『下流志向』の中で「労働の本質は雪かきにある」と言っている。

――●――

どういうことか。雪かきをする人は、雪かきをしているところを多くの人から目撃されることはない。人々が仕事や学校に行く時には既に雪かきは終わっている。そのきれいに雪かきされた道を、みんな当たり前のように歩いている。

中には「誰が雪かきをしてくれたんだろう？」と思いながら歩いている人もいるかもしれないが、誰がしたか分からないので、その感謝の気持ちが言葉になることはない。

しかし、誰かがそれをしなかったら、凍りついた雪に足を滑らせて転んだり、ケガをしたりする。

つまり、雪かきは誰かを喜ばすためにするのではなく、その道を通る人たちがいつもの人に普通に歩いて行けるようにやっているのである。

誰も見ていないし、誰からも称賛されることはない。それでも、その作業を誰かがやらなければならない。そういう人がいることで、実は社会はうまく回っているのだ。

そして何事もなく、平常通りに人々が仕事や学校に行ってしまったのを見届けた時、雪かきした人はものすごい充実感を覚えるのだろう。

もっと言うと、世の中の仕事というものはそういうものかもしれない。

いや、仕事だけではない。消防団や民生委員、自治会役員、夜回りなど、何十年もやっている人たちがいる。社会からの無言の称賛を感じる感性を持っていないと、「こんなことやってられるか！」という気持ちにもなるだろう。

内田氏は、同書の中で、足元にある大切なものに気づかず、遠くにある「幸せの青い鳥」を探して旅をすることと、「雪かき」を対比させている。

「自己利益の最大化」を求めて「青い鳥」を捜しに行く生き方も、もちろん尊重されるべきだが、そういう人たちは「雪かき作業」に対する敬意が欠けているのではないか、と。

――●――

数年前、内田氏は自分の研究とは関係ない大学の雑用をさせられていたときのことを、こうブログに書いている。

「…私が着任したばかりの頃には、年長の先生方がこんな仕事を今の私と同じように愚痴をこぼしながらされていて、その努力のおかげで大学組織が運営されていたわけである」

「そんな先生方の苦労も知らず顔に、若い私はお気楽に自分の研究をしていた。私もこれまで随分『雪かきされた道』を、それと知らずに足早に駆け抜けてきたわけであるからして、いずれ『お返し』をしないといけないのである」

きっと誰もが「誰かが雪かきした道」を歩いてきたのだ。それが何なのかは人によって違うけれど、やがて自分も「雪かき」のようなことをするようになる。その時は以前よりましな人間になっているのではないだろうか。

## たまちゃんの 人生相談

こんな答えでよかったら

悪いところしか見えない？
**もっと修行をしよう！**

講演家／筆文字作家　小玉 宏

【相談】教員をしていますが、生徒のいいところを探そうと努めてはいるものの、どうしても悪いところに目が行き、注意してしまいます。

これは生物として当たり前です。生物の脳はネガティブ思考ですから。

ざっくりポジティブ思考とネガティブ思考の二つに分けると、生物の思考はネガティブです。人間だけポジティブ思考ができるんです。

本能を司る脳の外側に「大脳新皮質」という脳があります。それがポジティブ思考をするんです。それが理性です。動物の脳は野性です。

動物の脳がネガティブなのは生き残っていくためです。例えば、「今日は疲れて眠いけど、ここで寝たら敵が襲ってくるかもしれない。半目だけ開けとこう」みたいな。

皆さんがネガティブな考え方を持っているのは生物として当たり前なんです。

だから、修行や努力や勉強などしなくても人の欠点が見えるんです。

でも、人の良さは大脳新皮質の脳で感じるものだから、人間性を磨かないと見えないんです。

人間と動物の違いはここです。人の良さが見えない人は、「ヒト」という種族ではあっても人間になり切れてないとたまちゃんは思っています。人間とは、人の良さが分かる、人の良さが見えるということです。

この相談者の先生が「生徒のいいところを探そうと努めている」というのは、人間性を磨く修行をしているんです。でもなかなかうまく見えてこない。だから「修行」なんです。

悪いところを見て、「お前、こういうところが悪いよ」と指摘するのは誰でもできます。教員はそんなことをして給料をもらっているんじゃないです。

何で給料をもらえているのかというと、「あなたはこういうところが素敵よ」「あなたはこういうところが素晴らしいよ」「あなたはこういうところが強みよ」と伝えることができるからです。

悪いところばかり目が行くのは、人間としてまだまだ未熟だということです。

心の修行をやっていく、つまり理性の脳を使い始めると、人の良さが見えてくる。そういう人じゃないと日本講演新聞の良さも分からないんです。

さらに修行をしていくと、人の悪いところが気にならなくなります。もっと修行すると、悪いところが見えなくなります。これが人としての「器」の完成形です。

人には「器」があるんです。「大器晩成」という言葉もあるでしょ。悪いところしか見えない人の「器」って、おちょこぐらい小さい。注いだらすぐあふれ出す感じ。だから我慢ができない。すぐ感情的になる。

修行していくと、それがやがて「コップ」になり、「バケツ」になり、「タライ」になり、「プール」になり、そして「琵琶湖」ぐらいになる。そうなると悪いところなんか見えないです。良いところしか見えないです。それぐらいの器の人間になりましょう。日々、人間としての修行です。

【こだま・ひろし】中学校教員時代にいろんな問題を抱えた生徒と深い関係を結ぶ。40代で退職し農業をやる傍ら全国で講演活動を展開中。

## 読者様の声

読者の皆さんからお寄せいただいたメッセージをご紹介します！

**◎スキルアップとして**（宮崎県W.Hさん）
自分自身のスキルアップのために読ませてもらっています。
また、新聞に掲載された本からは自分自身の視野を広めさせてもらっています。

**◎前向きにさせてくれます**（茨木県S.Hさん）
記事を読んでいると、気持ちが落ち着いたり、元気が湧いてきたり、
日本もまだまだ大丈夫だ！と思えたり、とにかく私を前向きにさせてくれる存在です。

**◎学級通信に活用しています**（兵庫県T.Uさん）
教師の私にとっても学びがあるのはもちろん、この新聞を通じて、子どもたちにたくさんの素敵な大人と出会ってもらいたいと学級通信で記事を紹介しています。

## 日本講演新聞関連の書籍

編集長・水谷もりひとの社説は日本経済新聞や産経新聞でも取り上げられ、大学の入学試験問題や中学校の道徳の教科書にも採用されています。

日本一心を揺るがす新聞の社説１～４

すごい人たち（教育・子育て関係）

仕事に磨きをかける教科書！（ビジネス関係）

あなたに贈る21の言葉（贈り物に最適）

心揺るがす講演を読む（本紙掲載の講演記事）

「社説」採用先一覧（一部）
＊令和５年度　新潟青陵大学入試小論文問題
＊令和３年度　関西福祉科学大学入試問題
＊平成31年～現在・中学３年『新しい道徳』教科書（東京書籍）
＊平成31年度　愛知医科大学入試小論文
＊平成28年度　東京学芸大学保健体育専修対象入試問題
＊平成27年度　宮崎県立看護大学入試小論文
＊平成25年度　関西大学英語講演習入試問題

お求めはお近くの書店またはアマゾン等のネットショップで！